

第2章 現状と課題

第2章 現状と課題

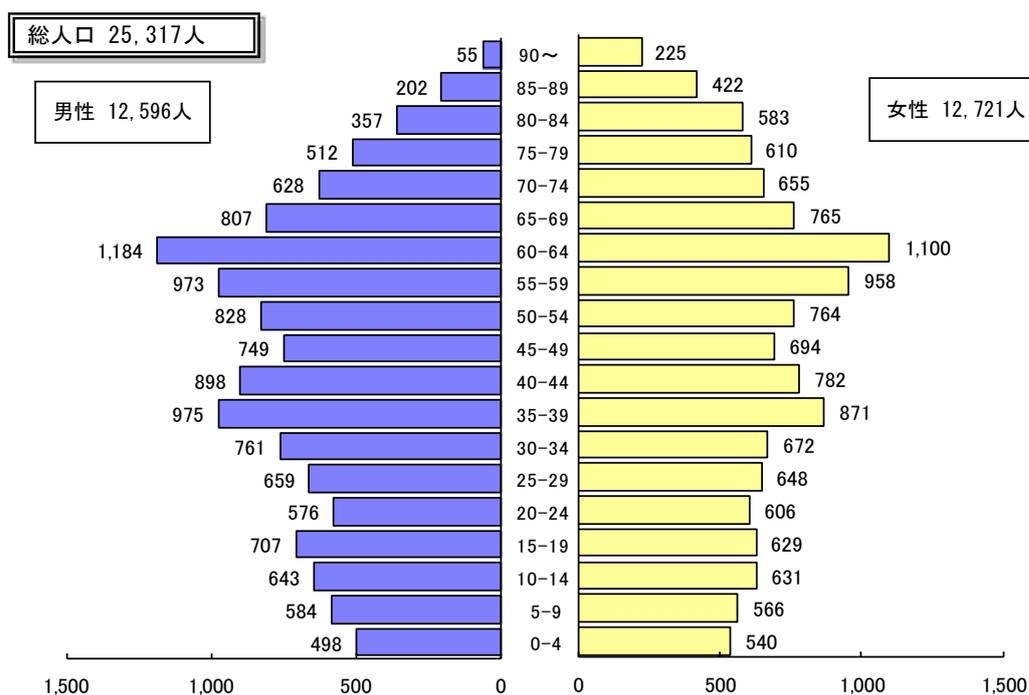
1 本町の概要

(1) 人口

本町の人口構成を人口ピラミッドで見ると、人口が最も多い年齢層が60～64歳、次いで55～60歳が多く、この膨らみが今後は上方へシフトして行きます。

人口ピラミッドの形状は、今後さらに上方の膨らみが大きくなり、下方の膨らみが小さくなっていくことから、少子高齢化が進行していることがうかがえます。

■年齢階層別人口



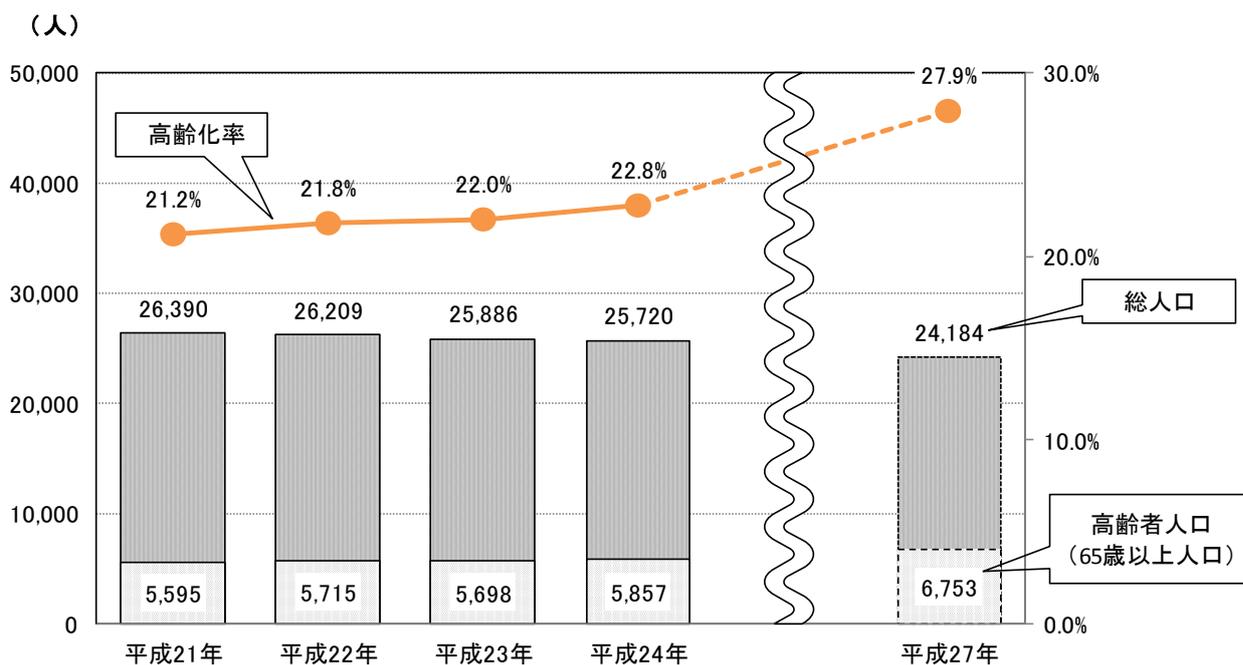
資料：平成24年4月1日（年齢不詳含まず）

(2) 人口と高齢化率の推移

平成 21 年度から平成 24 年度までの人口推移をみると、総人口は減少傾向ですが、65 歳以上の高齢者数は増加傾向で推移しています。

現状の推移を基に平成27年の人口を推計すると、総人口は24,184人、高齢化率は27.9% となると予測され、人口の減少、高齢化率の上昇に対する対策が必要となります。

■総人口と高齢化率の推移及び推計



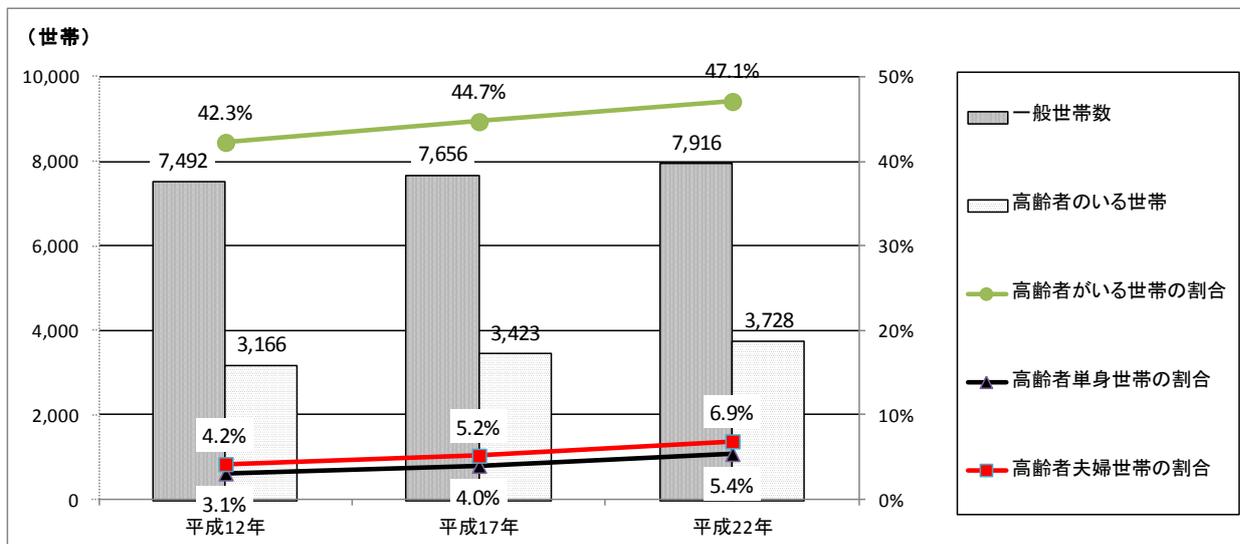
資料：境町高齢者福祉計画第5期介護保険事業計画（ただし平成24年データは実績値）

(3) 世帯数の推移

平成 12 年度から平成 22 年度までの世帯数推移をみると、総人口は減少傾向にありますが、世帯数は増加傾向で推移しています。

一般世帯数は平成 17 年から平成 22 年までに 260 世帯増加しています。同様に高齢者がいる世帯数は 305 世帯の増加となっていることから、高齢者のいる世帯が増加していることが分かります。

■世帯数の推移



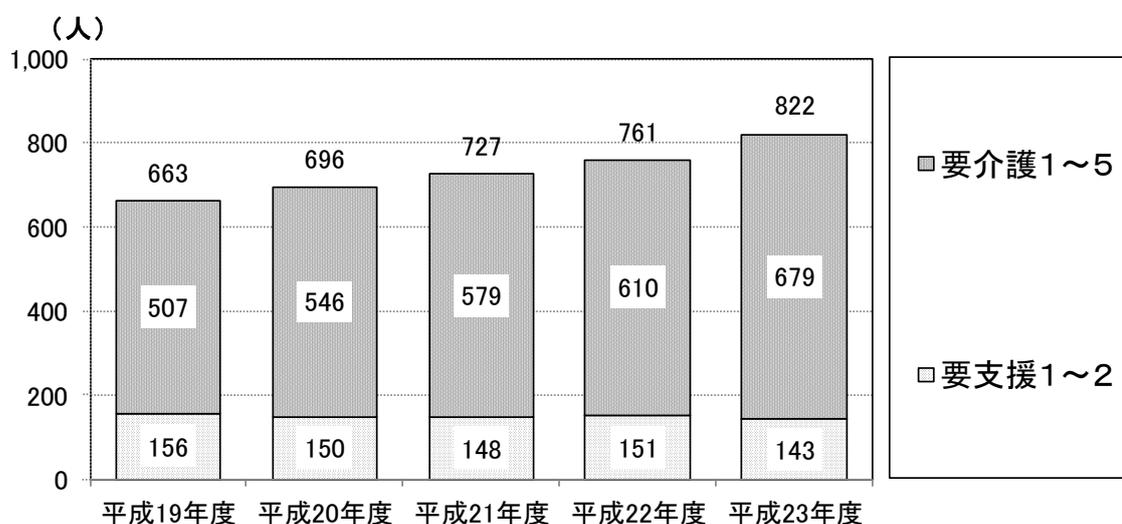
資料：国勢調査

(4) 支援を必要とする町民の状況

①要支援・要介護認定者数の推移

要介護等認定者は平成23年度現在822人となっています。要支援1・要支援2の認定者は横ばい又は減少傾向で推移していますが、要介護1～要介護5の認定者は平成21年度から平成23年度にかけて毎年50人以上の増加があり、要介護にならないための予防対策が重要です。

■介護認定者数の推移

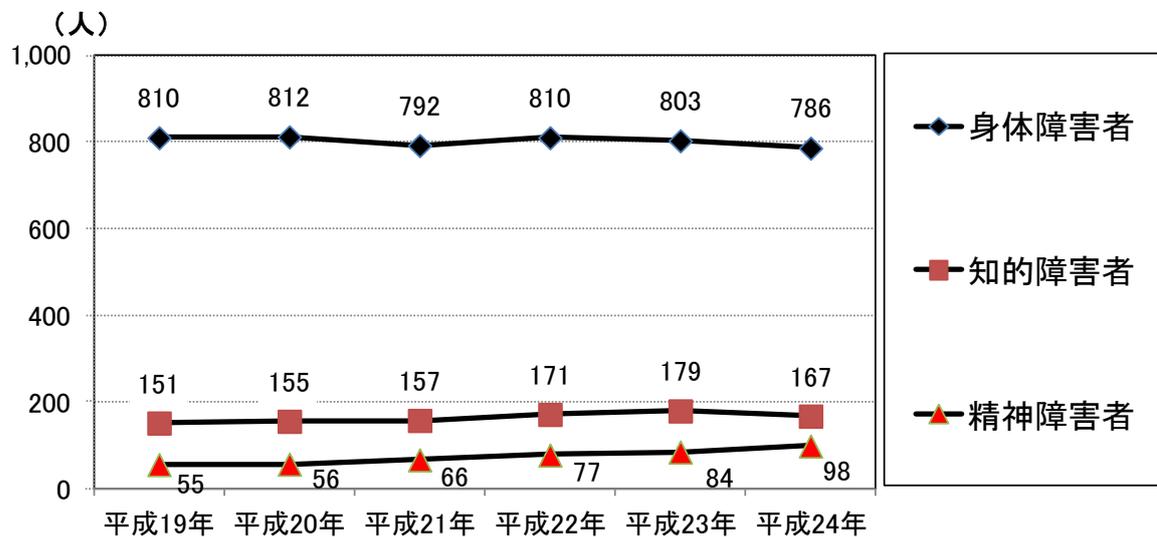


資料：境町高齢者福祉計画第5期介護保険事業計画

②障害者手帳所持者数の推移

障害者手帳所持者数について、平成24年と平成19年と比較すると身体障害者が24人の減少、知的障害者が16人の増加、精神障害者が43人の増加と身体障害者は横ばいから減少傾向で推移していますが、知的障害者と精神障害者は増加傾向で推移しています。

■障害者手帳所持者数の推移



資料：境町第2次障害者計画境町第3期障害福祉計画

2 町民アンケート調査結果

地域における近所付き合いの程度や地域との関わりなどについて調査した町民へのアンケート調査の結果を、町民の視点から見た地域福祉の施策に対する評価として捉え整理しました。

(1) 調査の目的

地域福祉計画の見直しを図るために、町民の皆様の地域福祉に対する考え方や、日頃の生活やボランティア、地域活動の状況などを把握し、計画づくりの基礎資料を得ることを目的としました。

(2) 調査の対象及びサンプル数

調査対象者	基準日	抽出方法
20歳以上の町民1,500人	平成24年7月1日	住民基本台帳からの年代別男女別に無作為抽出

(3) 調査方法及び調査実施期間

調査方法	郵送による配布・回収
調査実施期間	平成24年7月19日～8月5日

(4) 回収結果

調査対象者	配布数	回収数	回収率
20歳以上の町民	1,500	602	40.1%

(5) 分析・表示について

- ・比率は、小数点以下第2位を四捨五入しています。このため比率が0.05未満の場合には0.0と表記しています。また、合計が100.0%とならないこともあります。
- ・複数回答の項目については、原則として、その項目に対しての有効回答者の数を基数とし、比率算出を行っています。このため、比率計が100%を超えることがあります。
- ・報告書中の文章やグラフにおいて、設問や選択肢の一部を省略して記載している場合があります。
- ・グラフの（n：〇〇）という表記は、その項目の有効回答者数で、比率算出の基礎となります。

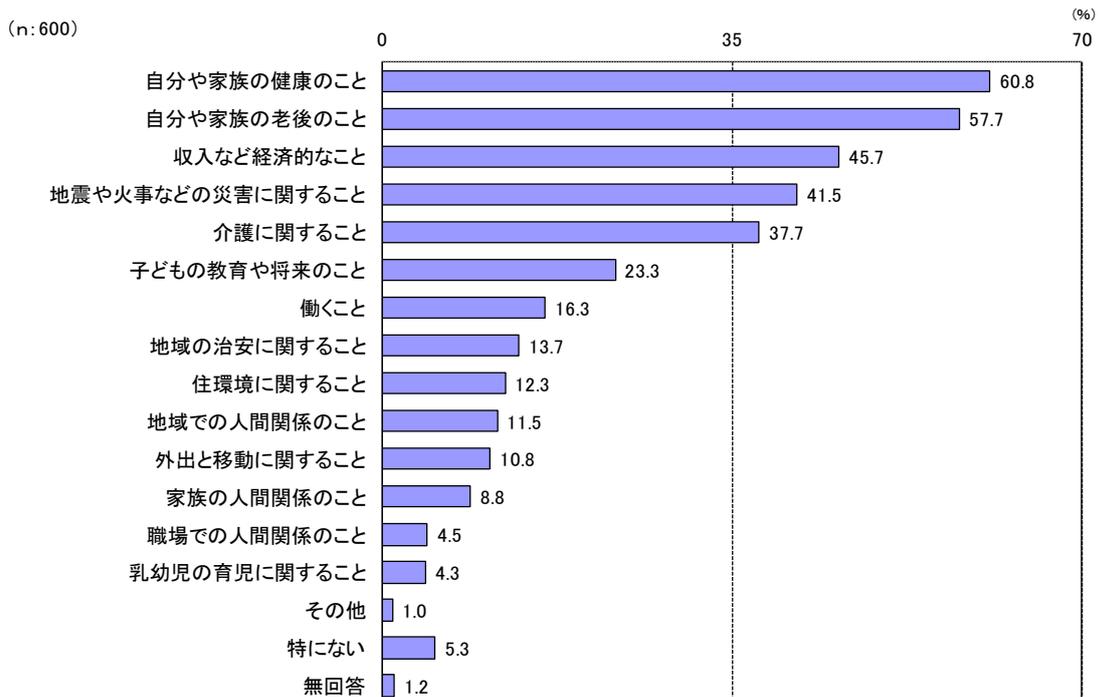
(6) 主な調査結果

①日常生活での不安

日常生活で日頃不安に思っていることでは、「自分や家族の健康のこと」、「自分や家族の老後のこと」を半数以上があげています。

次いで「収入など経済的なこと」、「地震や火事などの災害に関すること」は4割以上があげています。

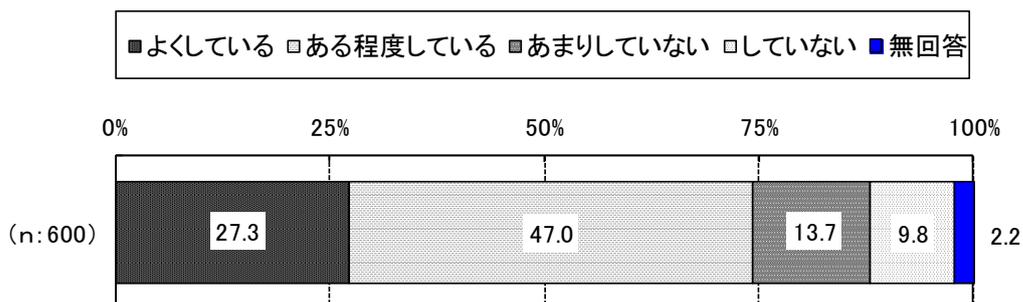
■日常生活での不安



②近所の人との付き合いの程度

近所との付き合いの状況では、「よくしている」、「ある程度している」を合計すると74.3%となっています。

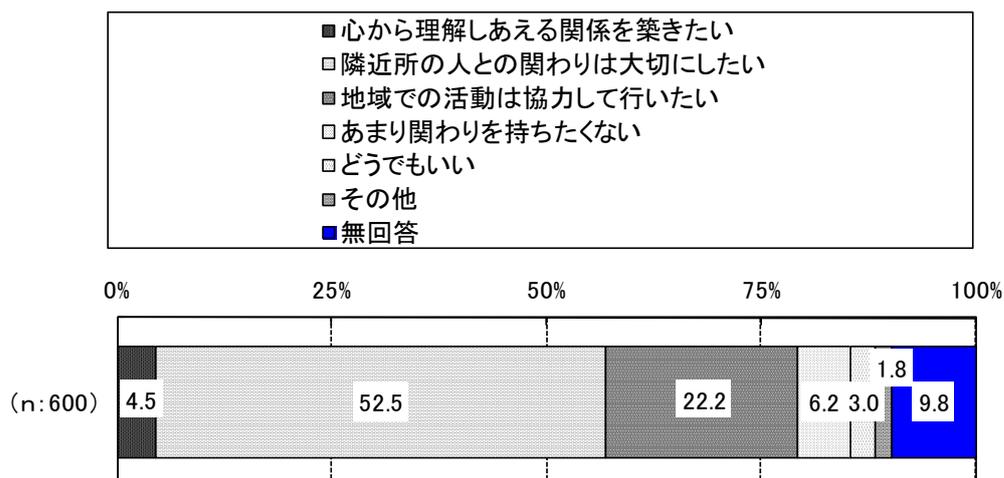
■近所との付き合いの状況



③近所の人との関わりの考え

近所との関わりについての考えでは、「隣近所の人との関わりは大切にしたい」を52.5%があげています。

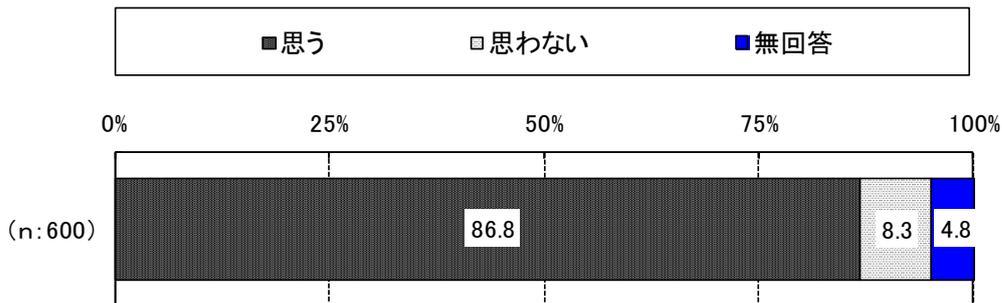
■近所との関わりの考え



④地域住民相互の自主的な協力関係

地域住民相互の自主的な協力関係が必要であるかの間では、自主的な協力関係が必要と「思う」が86.8%となっています。

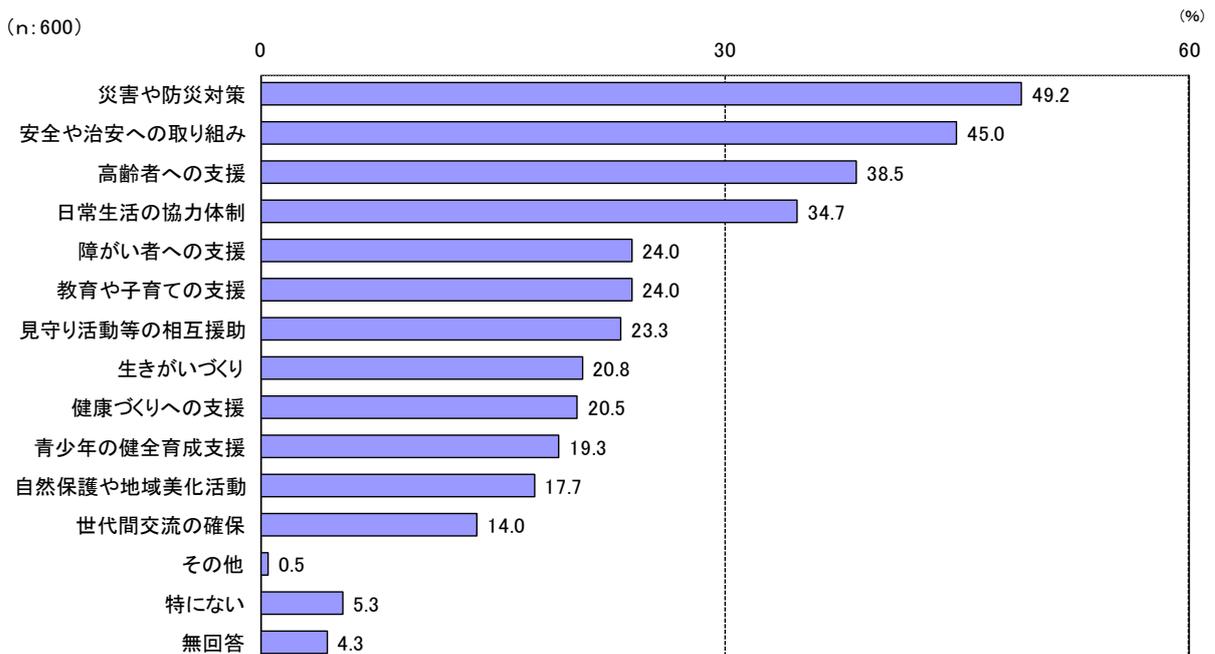
■自主的な協力関係



⑤「地域」としての役割や相互扶助に期待すること

「地域」としての役割や相互扶助に期待することでは、「災害や防災対策」が49.2%で最も多く、次いで「安全や治安への取り組み」、「高齢者への支援」、「日常生活の協力体制」が上位にあげられています。

■「地域」の役割及び相互扶助



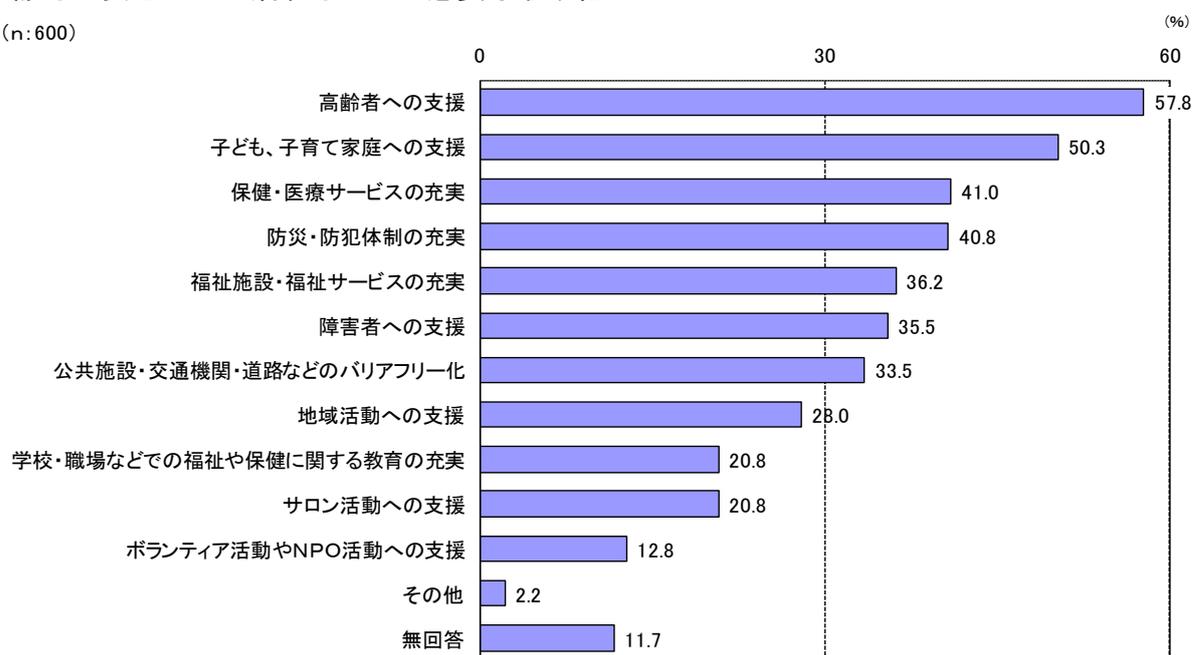
⑥境町において、誰もが安心して生活するために必要な取り組み

誰もが住み慣れた地域で安心して生活していくために必要な取り組みでは、「高齢者への支援」、「子ども、子育て家庭への支援」、「保健、医療サービスの充実」、「防災・防犯体制の充実」を4割以上があげています。

年齢階層別では、20歳代～40歳代は「子ども、子育て家庭への支援」、50歳代～70歳代以上は「高齢者への支援」がそれぞれ最も多くなっています。

■誰もが安心して生活するために必要な取り組み

(n:600)

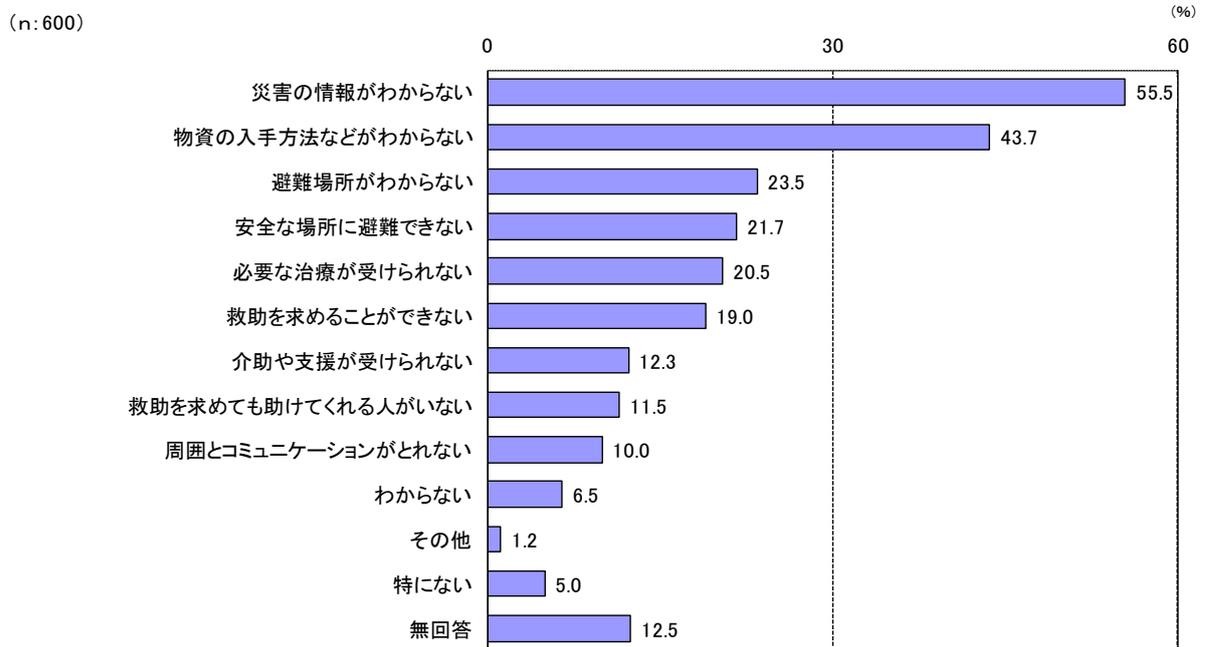


⑦地震などの災害の発生時に困ること

災害発生時に困ることでは、「災害の情報がわからない」、「物資の入手方法などがわからない」が他の項目と比較して特に多くなっています。

年齢階層別では、「災害の情報がわからない」が20歳代以外は全ての年代で最も多くなっています。また、20歳代と30歳代では「物資の入手方法などがわからない」が最も多くなっています。

■地震や災害発生時に困ること



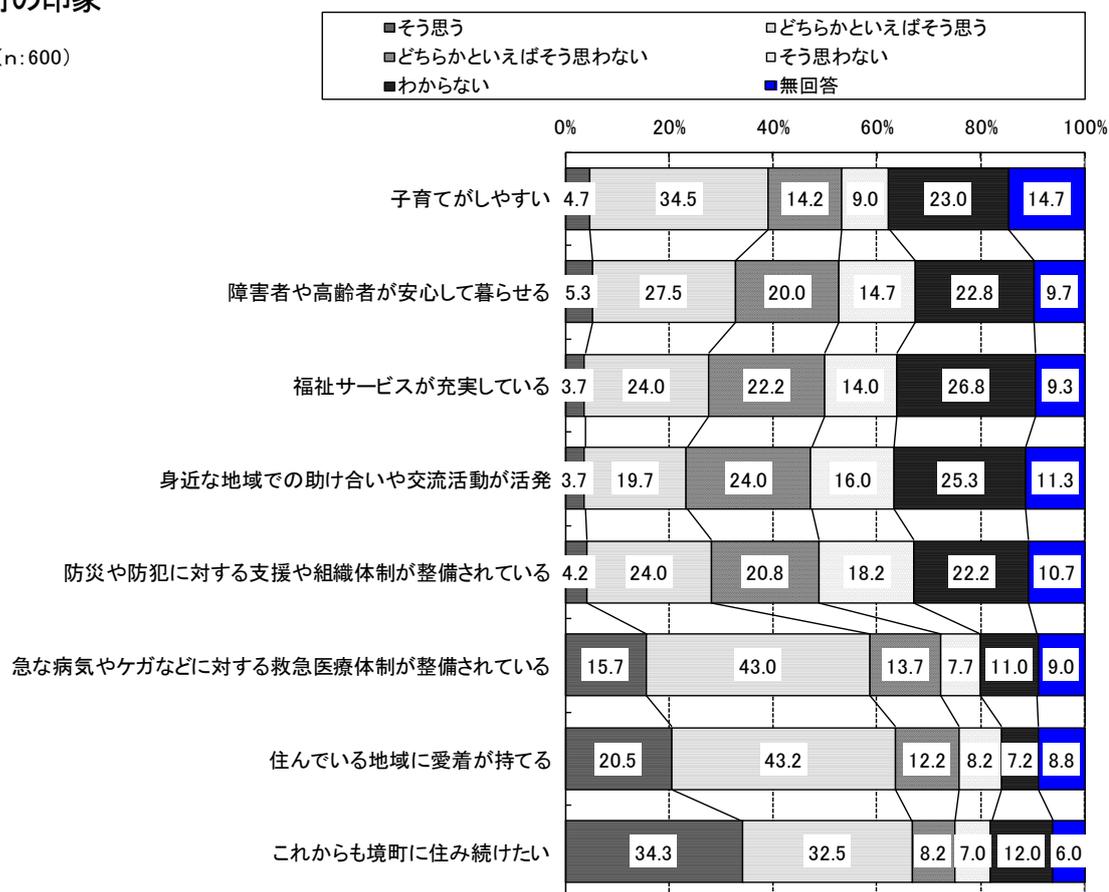
⑧境町についての印象

境町について印象をみると、「子育てしやすい」、「急な病気やケガなどに対する救急医療体制が整備されている」、「住んでいる地域に愛着がもてる」、「これからも境町に住み続けたい」は「そう思う」（「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計）が「そう思わない」（「どちらかといえばそう思わない」と「そう思わない」の合計）を上回っています。

逆に、「そう思わない」が「そう思う」を上回っている項目の中で、「身近な地域での助け合いや交流活動が活発」が最も差が大きく16.6ポイントとなっています。

■境町の印象

(n: 600)



境町の状況	そう思う + どちらかといえばそう思う	比較	どちらかといえばそう思わない + そう思わない
子育てがしやすい	39.2	>	23.2
障害者や高齢者が安心して暮らせる	32.8	<	34.7
福祉サービスが充実している	27.7	<	36.2
身近な地域での助け合いや交流活動が活発	23.4	<	40.0
防災や防犯に対する支援や組織体制が整備されている	28.2	<	39.0
急な病気やケガなどに対する救急医療体制が整備されている	58.7	>	21.4
住んでいる地域に愛着が持てる	63.7	>	20.4
これからも境町に住み続けたい	66.8	>	15.2

3 町民懇談会結果

(1) 目的

地域福祉計画策定にあたっては、意識調査とともに住民参加の取り組みとして、町民懇談会を開催しました。

この町民懇談会は、「地域のさまざまな課題について」をテーマとし、自助（自分自身のこと）や共助（隣近所とのかかわり）、公助（役場の支援）について、個人や地域でできること、支援策について意見を出し合うことで、地域でのつながりの重要性について考える機会としました。

(2) 開催状況

- ・日 時 平成24年8月26日
- ・場 所 境町役場4階会議室
- ・参加者数 35名

(3) 開催内容

- ・テーマ 防犯・防災関連・生活・環境（ゴミ）関連・ボランティア関連・高齢者関連・障害者関連・子育て関連・その他について地域の状況について討論
- ・手 順 ステップ1：テーマ別に地域の良いところ困っているところを討論
ステップ2：解決すべき課題について自助・共助・公助の視点から討論
ステップ3：地域の将来像について討論



(4) 各テーマ別の主な課題

■防犯・防災関連

- ・防犯，防災の訓練や整備や備蓄の確保，地域，ボランティア，行政等の訓練をどんな災害が発生しても大丈夫なように取り組む必要がある。
- ・震災時，停電の復旧見込の広報があるとよかった。
- ・暗い道路が多く，夜歩くには不便。・外灯が欲しい。
- ・わかりやすい防災マップが欲しい。
- ・AEDの場所がわからない。
- ・道路の信号について改善するところあり。
- ・2世代家族が少なく，昼間いない家庭が多い。
- ・防災訓練の方法を工夫して欲しい・防災訓練をやって欲しい。
- ・防犯パトロールができていない。



■生活・環境（ゴミ）関連

- ・ゴミの分別（カン類）の仕方が難しい。
- ・他の地区・他の町からのゴミの持ち込みがある。
- ・ビン，ペットの分類ができていなく，回収されないまま置いてある。
- ・リサイクルのできる物，社会資源として重要となるものを，住民が理解する。
- ・決められた日時にゴミを出して欲しい。
- ・地域の境界に住んでいるために，色々な問題がおきている。
- ・シャッター通りになったところをなんとか明るい通りにして欲しい。
- ・ふれあいの里の駐車場が遠い。池をなくせないだろうか。
- ・ゴミを捨てるモラルが悪い。班に入っていない人のゴミ置き場がない。
- ・休耕田の管理が悪い（草が生えている）。

■ボランティア関連

- ・町の行政組織がそれぞれ抱えているボランティア団体がバラバラで、有機的に活動できていない面がある。
- ・活動に参加する方を増やすこと。自主参加が少ない。
- ・高齢者・障害者・子育ての地域の生活はどうか。三本柱を、社協を中心にボランティア組織を充実させる。
- ・ボランティアの募集をしても集まらない。
- ・ボランティアの窓口がわからない。
- ・ボランティアに参加したいがどうしたらよいかわからない。
- ・各種ボランティア活動をしているが、町民にはよくわからないところがある。



■高齢者関連

- ・高齢者に対するサービスは有料もいいが、できればボランティアでできないものか。
- ・老人クラブの加入が年々減少しつつある。また名称が良くない。
- ・高齢者も交通安全教室などに参加し、交通ルールなどを再確認して欲しい。
- ・ボケないで元気で長生きできるよう、行政、社協、地域包括支援センター（ファミリー境）を中心に、取り組み、老人の寝たきり予防を課題にして欲しい。
- ・高齢者に対する家族や身近な方の認識が不足気味。
- ・夕方に歩行する人には、安全確保のために反射する腕章等をつけて欲しい。
- ・サロン事業を展開する場所がない。
- ・福祉タクシー制度の使い勝手が悪い。
- ・散歩する場所の交通が多く危ない。
- ・高齢者の交通手段がない。
- ・独居の高齢者が増えていて、地域とのかかわりが少ない。

■障害者関連

- ・外出の際、サービスはあるが自由に出られない。
- ・障害者の防災、避難場所に苦労している（障害者が安心して災害の時、避難できる場所が欲しい）。
- ・社会資源をもっと充実させて欲しい。住まいの場、グループホーム、ケアホームなど。
- ・障害者の働く場所がない。
- ・卒業後の就労する場がない。
- ・学童保育的な施設、場所が少ない。
- ・親亡き後の子供の生活の場の問題。入所、グループホームなど。
- ・災害時の避難場所の配慮。



■子育て関連

- ・子育て支援の体制は考えているが、根本的に子供の数は少なくて将来が不安。
- ・低学年を持つ親の放課後の時間的な対応が困難。
- ・小さい時から、健全育成に行政が取り組み、いじめのない社会づくりが必要。
- ・通学路の整備（歩道・ガードレールなど）。
- ・保育サポーターが少ない。
- ・病児保育をして欲しい。
- ・児童クラブを6年生までにして欲しい。



■その他

- ・夏祭り等大型イベント時の駐車場や案内の不足。
- ・公民館の有効活用がされていない。
- ・子どもの自殺に関する教育が必要。
- ・町民祭の時の子供たちが少ないので、となりの行政区から協力を得て一緒にすると良い。

4 本町の地域福祉の課題

(1) 地域づくりの推進

本町では少子高齢化の進行とともに、世帯の推移から見て、ひとり暮らし高齢者、高齢者ふたり暮らし世帯や核家族世帯がさらに増加することが予測されます。アンケート調査で、近所の人とお付き合いの程度について尋ねたところ、若い年代ほど「あまりしていない」や「していない」の割合が高く、地域の連帯感の希薄化が懸念されます。

また、アンケート調査結果から「身近な地域での助け合いや交流活動」については、本町では活発ではない印象が多いため、地域におけるお祭りや各種行事に加え、高齢者、障害者、子育ての方々等を対象にしたサロン事業等による地域コミュニティづくりが大きな課題となっています。

(2) 福祉教育の推進

福祉については、実際に福祉サービスを受ける対象となるまでは関心が低いことが考えられますが、ボランティア活動や住民懇談会など、何かのきっかけを通じて自分の身近なところから意識を持つことが重要となります。

地域福祉活動を推進する上では、福祉に対する理解を深め、福祉の心を醸成させるため、広報・福祉映画会・福祉講演・研修会等により、周知・啓発を行っていくとともに、地域の教育機関や団体などが連携して福祉教育を推進することが必要です。

(3) ボランティアの育成

ボランティア活動は強制ではなく個人の自主性に基づくものであり、その精神はあらゆる福祉活動を進めるにあたって非常に重要なものとなります。多彩な地域福祉活動を支える福祉ボランティアや町民活動の人材の確保を図ることは地域福祉を推進していく上で欠くことができないものです。

社協を中心にボランティア活動や組織の充実を図るべきとの意見もあり、今後、ボランティア活動に関する相談・援助・登録・紹介や養成研修、情報提供、啓発・普及等の活動が課題であり、社協が、ボランティアセンターとしての機能を強化し、その役割を果たしていくことが求められています。

(4) 災害時や防犯等に備えた地域づくり

近年、集中豪雨や大型台風などによる大きな災害が増加しており、東日本大震災は記憶に新しいところです。

本町においては、人口減少や高齢化で小規模高齢化集落となる行政区も出始め、集落機能の再編や地域における公共交通の確保といった課題について検討も必要となっています。

また、高齢化の進行と併せて災害時要援護者が増加することが予想されます。行政からの支援に加えて地域福祉の考えを中心とした地域の防災力の強化が重要となります。

防災と併せて、防犯への取組みも求められています。ひとり暮らしの高齢者や子どもを狙った犯罪などの事例も多く見られますが、このような中、犯罪などを未然に防ぐためには、夜間防犯パトロールや防犯ボランティアをはじめ地域の見守り活動を中心とした、住民が主体となる防犯対策が必要となります。

アンケート調査で、地震や災害時に困ることでは、「災害の情報がわからない」が55.5%で最も高く、「物資の入手方法などがわからない」が43.7%で続いています。こうした不安を解消するために災害時の対策を検討し、指針を明確にする必要があります。